


生薬解説 259 たー4

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
		中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
たー4	だいげき 大戟	苦・寒・有毒 肺・脾・腎	1.5～3g、煎服。丸、散にすることが多い。 外用には適量。
中医生薬解説			
	 <p>トウダイグサの根</p>	<p>瀉水除湿 水腫実証の腹水、浮腫、尿量減少、便秘、脈が実などの症候に、甘遂・芫花・牽牛子などと用いる「舟車丸」。</p> <p>逐痰涤飲 痰飲積聚胸膈（胸水）の胸が張って苦しい、脇肋部の鈍痛、咳嗽などに、甘遂・白芥子などと用いる「控涎丹」。</p> <p>消腫散結 癰腫瘡毒（皮膚化膿症）、瘰癧（頸部リンパ節腫）、痰核（皮下結節）に、山慈茹・麝香などと用い、内服、外用する「紫金錠」。</p>	
	参考	大戟は 甘遂 と効能がほぼ同じで、薬力がやや劣る。	
	使用上の注意	峻裂で有毒であるから、虚弱者には慎重を要する。 陰寒水腫、妊婦には禁忌である。	
中医以外の生薬解説			
	神農本草経	味苦寒、蠱毒、十二水腹滿、急痛、積聚、中風、皮膚疼痛、吐逆を主どる。 「方劑決定のコツ」の注釈 「蠱毒」は、腹中の虫によって痛みを生ずる虫のこと。「十二水」は、十二経脈の水のこと。	
	薬 徴	利水を主どる也、旁ら掣痛咳煩を治す。	
	新古方薬囊	味苦寒、熱の為にさへぎられ滞りたる水を下すことを主どる、而してその能 甘遂 と相似たる所ありて小異なるもの如し、 大戟 の根は地中に直入し、 甘遂 の根は地中を横走す、恐らく人の體中に入りても此れに因みたる働きあるにあらざるや。 「方劑決定のコツ」の注釈 大戟 は深い所に集まっている水を除き、 甘遂 はそれより浅く広がっている水を除く働きがある。	